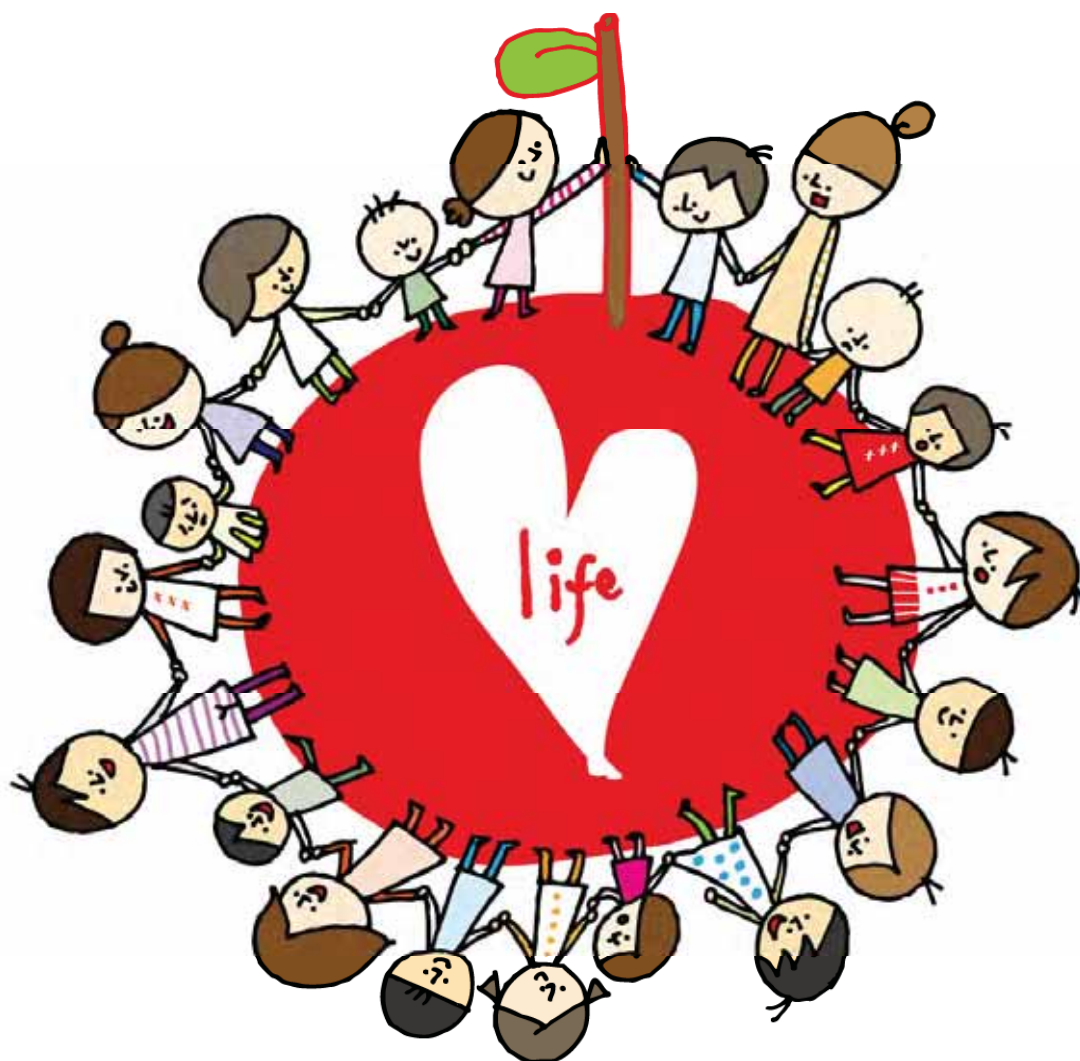




元気 な未来のために、
子どもの心に**種**をまこう！

「乳幼児期における食育活動」事例集



平成 2 4 年 2 月

農林水産省
中国四国農政局

表紙イラストの想い

作：marico*（中本 真理子）
イラストレーター/管理栄養士/徳島大学大学院生

私がこれまで、食や栄養、健康のことを勉強し、食にまつわる取組をしてきた中で、食の周りには、笑顔や楽しい気持ち、一生懸命になる気持ち、誰かのことを思うことができる優しい気持ちなど、たくさんの“ヒトを幸せにするモノ”が集まってくることを感じています。

また、食育活動で子どもたちと接する中で、子どもたちの吸収力の大きさを感じました。

子どもたちは、いつでも真剣で、まっすぐで、私たちが発する言葉、動き、さまざまな情報をきちんとキャッチし、自分のものにしていく力が、どんな大人よりも優れています。それを感じたときに、私たち大人が子どもたちに何を発信していきたいのか、伝えていきたいのかを考えました。

「食」にまつわる仕事には、作物を育てること、作物を加工して販売すること、作物を調理して料理を提供すること、食器やキッチンをおしゃれにして楽しい雰囲気を作ることなど書ききれないくらいたくさんあります。

その一つ一つがなくてはならないものであり、その仕事にまつわる多くの人たちが必要で大切な人たちなんだということを伝えたいと思いました。そして、「食」は“ヒトとヒト、ヒトと地域をつなぐ”大きな力を持ったものだということも伝えたいと思いました。

『たくさんの人たちが「食」を通してつながっている』そんな想いをもって、この作品をつくりました。

大人も子どもも一緒になって「食」を考え、自分たちの地域を活性化したり、人間力を形成していけるような活動が広がりますように。そして、そんな活動の輪が広がって、多くの人たちが誰かのことを想いやれるような素敵な世界になりますように・・・

は じ め に

食育については、平成17年6月に制定された食育基本法に基づき、平成23年3月に新たに「第2次食育推進基本計画」が決定され、「周知から実践」をコンセプトに、国民が「食料の生産から消費等に至るまでの食に関する様々な体験活動を行う」などを柱に、生涯にわたり間断なく食育を推進する「生涯食育社会」の構築を目指すことなどが重点課題とされています。

「生涯食育社会」のライフステージのひとつである「乳幼児期」の食育を主に担う幼稚園や保育所（園）においては、現在、「幼稚園教育要領」及び「保育所における食育に関する指針」等により様々な取組がなされています。

中国四国農政局では、「生涯食育社会」の構築を進める上で、乳幼児期の食育の重要性に着目し、自然や生き物（動植物）との触れ合いなど「体験」を通じた食育の推進が大切と考えています。平成23年度は、その第一ステップとして、野菜の栽培など体験を通じた乳幼児期の食育に取り組んでいる団体、幼稚園、保育所（園）の情報を収集し事例集を作成し、第二ステップとして、関係機関へ食育活動の実践に向け働きかけを行っていくこととしています。

この事例集は、中国四国地域で「乳幼児期における食育活動」に取り組まれている、幼稚園や保育所（園）の事例にとどまらず、様々な団体の事例も収集し、その活動の概要や成果、将来に向けての構想、代表者（担当者）の思いなどを取りまとめたものです。

この事例集が多くの方々に利用され、「乳幼児期における食育活動」が、より多くの地域で取り組まれることを期待しています。

最後になりましたが、本事例集の作成に当たり、取材等にご協力をいただきました皆様にこの場をお借りしまして感謝申し上げます。

また、事例を収集するに当たっては、中国四国農政局が把握している範囲内での収集となりましたことを申し添えさせていただきます。

平成24年2月

中国四国農政局 消費・安全部 消費生活課

目 次

★ 活動事例における特徴的な取組について	1
★ 各事例から学ぶ	4
★ 多様な取組主体による中国四国と全国の取組事例	7

幼稚園・保育園

① ひかり幼稚園（鳥取県）	8
② 倉吉東保育園（鳥取県）	10
③ 保育所 みのり愛児園（広島県）	12
④ 阿波市立 久勝幼稚園（徳島県）	14
⑤ 琴平町立 南幼稚園（香川県）	16
⑥ 飯岡保育園（愛媛県）	18
⑦ みかづき幼稚園（高知県）	20

団 体

⑧ 絵本と食育「はらぺこあおむし」（鳥取県）	22
⑨ 社団法人 岡山県栄養士会（岡山県）	24
⑩ 三次農業協同組合（広島県）	26
⑪ NPO 法人 きららの里（山口県）	28
⑫ とくしま食育推進研究会（徳島県）	30

行 政

⑬ 出雲市健康増進課（島根県）	32
⑭ 岡山市農林水産課（岡山県）	34
⑮ 府中市乳幼児期食育向上推進委員会（広島県）	36

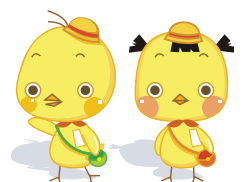
全国の事例

⑯ 村山中藤保育園（東京都）	38
⑰ きのみむすび保育園（大阪府）	39

★ 参考データ	40
---------	----

活動事例における 特徴的な取組について

中国四国「乳幼児期における食育活動」事例マップ



各事例のテーマと特徴

事 例	テーマ	特 徴
ひかり幼稚園 (鳥取県鳥取市)	土に親しみ、食に関心を持つ心を育てる	・農場を借り、農家の方の指導や管理のもと野菜を栽培 ・保護者も「農園委員」として体験 ・園児が育てた野菜を給食に使用し、園児は料理を手伝う
倉吉東保育園 (鳥取県鳥取市)	みんなで美味しく楽しく食べる	・和食を中心とした給食 ・3歳児以上は野菜を栽培、5歳児は米の栽培体験 ・自然観察、体験などちびっ子探検隊活動を実施
保育所 みのり愛児園 (広島県広島市)	「いのち」の大切さや感謝のこころを学ぶ	・プランター等を活用し園庭で米や野菜を栽培 ・地元の特産品の広島菜を栽培 ・子どもでもできる「簡単クッキング」を教える
阿波市立 久勝幼稚園 (徳島県阿波市)	地域のつながりで知る”ふるさと”の良さ	・地域の方と連携し、様々な体験活動に取り組む ・稲作体験は、農業後継者クラブの協力により、しろかきの見学から稲刈り、脱穀までの一連の作業を体験
琴平町立 南幼稚園 (香川県琴平町)	子どもに身につけさせたい「5つの力」	・隣接する高校生と、おにぎりパーティを開催 ・3つの栄養素（赤・黄・緑）の摂取を啓発 ・園庭で野菜を栽培
飯岡保育園 (愛媛県西条市)	「いただきます！」に心を込めて	・隣接する畑で野菜などを栽培 ・園で朝ごはんを作って食べる「みんなでおいしい朝ごはんの日」 ・オリジナルソングでダンスをしながら、野菜摂取を啓発
みかづき幼稚園 (高知県高知市)	自然に学ぶ、命と食の大切さ	・園所有の森（みかづきの森）で、年間を通じた自然体験 ・近くの畑でさつまいもや野菜を栽培し、日々の水やりから収穫までを体験
絵本と食育「はらぺこあおむし」 (鳥取県倉吉市)	絵本の中から食育を！	・子ども達を対象に、絵本の読み聞かせを中心とした体験型食育を実施 ・絵本に出てくる野菜や果物を使いおやつを作り試食
(社)岡山県栄養士会 (岡山県岡山市)	食生活を見直すきっかけづくりを提供	・子どもや保護者を対象に「食育講習会」を実施 ・「食育講習会メニュー」で、要望に応じた講習会を実施 ・乳児期の子どもに対する取組を実施
三次農業協同組合 (広島県三次市)	子どもは地域の宝	・「ちゃぐりんキッズクラブ」を結成し、米や地域の特産物の栽培等の「食農教育」に取り組む ・近年は、小学校だけでなく、保育所も一緒に取組を開始
NPO法人 きららの里 (山口県美祢市)	「いのち」を体感できる場を提供	・子どもを対象とした食農教育に取り組む ・幼児を対象に、さつまいも、じゃがいも等の植え付け、管理、収穫などの栽培体験に取り組む
とくしま食育推進研究会 (徳島県徳島市)	クイズやダンスで「楽しい食育」	・幼児向け啓発プログラムとして「手コマ式食育指導プログラム」、「ホネホネダンス」を独自に開発 ・徳島県内の幼稚園・保育園等を中心に普及啓発活動を実施
出雲市健康増進課 (島根県出雲市)	野菜大好き！ 親子で野菜作り	・親子で野菜作りを体験する「わくわく食育体験事業」を島根県立出雲農林高校と連携して実施 ・種まきや植え付けから収穫、調理までの一連の作業を体験
岡山市農林水産課 (岡山県岡山市)	農業体験を通して食育を推進	・市内の幼稚園・保育園等を対象に、「子ども食農体験事業」を実施 ・「岡山県食農教育研修会」を開催し、食育の講演会を実施
府中市乳幼児期食育向上推進委員会 (広島県府中市)	担当者間の連携で食育活動をレベルアップ	・市内保育所（園）の食育担当者により定期的に会議を開催し、情報を共有することにより食育活動の向上に取り組む ・保護者に対し「食育アンケート」を実施し食育の啓発

【全国の事例】

村山中藤保育園 (東京都武蔵村山市)	幼児期から味覚を育てる	・給食は全て手作りで和食を中心とした献立 ・おやつもドロップ、おしゃぶり昆布、スルメ以外は手作り ・菜園で野菜を栽培
きのみむすび保育園 (大阪府大阪市)	食事で健康な体と豊かな心を	・給食は、玄米ごはんと和食のおかずの献立 ・姉妹園「きのみ保育園」では、80坪の畑で野菜を栽培し、自給自給を実践

各事例に学ぶ

幼稚園 保育園 等

事例の特徴

- 生産者など地域の人、保護者との連携による地域の特産物や米、野菜などの栽培体験
- 野菜の摂取など、バランスの摂れた食生活の啓発
- 和食を中心とした給食

成 果

- 育てる喜びを感じ、食べ物大切にすることが芽生えるなど、感性が培われる
- 自分が育てたものは、嫌いなものでも食べようと努力する、結果として、食べられなくても努力しようとする事が大切
- 園等での出来事を、家庭で保護者に伝えたり、保護者と一緒に体験することにより家庭での食育に繋がる
- 和食中心の給食で、肥満の子どもがいなくなった

今後の構想など

- 園等での栽培体験は、開園以来続けてきているところなど、永年続けているところが多く、今後も現在の活動を充実させながら継続させたい
- できる限り様々な体験をさせ、「生きる力」を身につけさせたい
- ふるさとを大切に思う心を培う
- 子どもを通じて保護者を変えたい

団体

事例の特徴

- 食事バランスガイドを活用した食生活の啓発
- 絵本などによる「食」への関心のきっかけづくり
- 農業体験などの「食農教育」

成 果

- 子どもや保護者、共に「食」への関心の芽生え
- 農業体験に取り組むことにより地域の結びつきの強化

今後の構想など

- 専門性を生かし活動を継続したい
- 活動の周知を図り、多くの要望を受け入れたい

行政

事例の特徴

- 農業体験活動の推進
- 担当者間の連携による活動の向上

成 果

- 生産の大変さを実感し、「食」への関心の芽生え
- 食育活動のレベルアップに繋がった

今後の構想など

- 現在の取組を継続させると共に活動が広がるよう検討
- 共同で作業することの重要性を伝えたい

多様な取組主体による 中国四国と全国の取組事例

ひかり幼稚園

土に親しみ、食に関心を持つ心を育てる

ひかり幼稚園は、鳥取市の中心部にあり、キリスト教精神に基づいて、一人ひとりを大切にしていける保育に取り組んでいます。幼い心と身体の順調な成長を図るとともに、それぞれの個性を尊重し、家庭的な雰囲気の中で育んで行くことを心がけています。

幼稚園の概要

■ 名称	学校法人 ひかり幼稚園
■ 所在地	鳥取県鳥取市湖山町北3丁目405番地
■ 園児数・職員数	園児数:121名 職員数:18名
■ 代表者名	園長 久野 芳枝
■ 電話	0857-28-3101
■ FAX	0857-28-3101
■ HPアドレス	http://hb7.seikyou.ne.jp/home/Hikari.Youchien/

ひかり幼稚園



鳥取県

食育活動の概要

活動の動機・目的

ひかり幼稚園が設立された昭和42年頃、園がある湖山地区に鳥取大学や鳥取空港が移転され、回りが住宅地化され始めました。住宅地化に伴い、土が無くなり、土の匂いが失われて行き、子ども達に土の匂い、土の感覚を忘れさせてはいけなかったと思います。

そこで、子ども達が土に触れる体験の菜園活動などを通して、命の大切さや感謝の気持ちを育てることができれば良いと考え、平成3年から菜園活動やクッキングに取り組みました。

活動の紹介

平成3年から地域の方の農場を借り、農家の方の指導や管理のもと野菜の栽培を行う「ひかり農場」の取組を5歳児を中心に行っています。また、近年は、もっと身近に日々の生長が見られるようにと、園内の畑でも野菜の栽培をしています。

子ども達は、種まき、苗植えをはじめ、日々の水やりや草取り、収穫などを行っています。

「ひかり農場」での菜園活動は、農場が園から少し離れているため、保護者の農園委員が草取りや収穫を手伝っています。親も体験を通じて学び、親子で「食」に関心を持つようにしています。

「ひかり農場」や園内の畑で育てた野菜を給食に使用し、子ども達は具材を切るなどの手伝いをしています。

梅の季節には地元で取れた梅を使い梅ジュースを作ったり、ちまきの巻き方を地域の人から教えていただくなど、食文化を知る取組も行っています。

平成23年度は、園の菜園で取れたいちごを使って「いちごジャム」を作りました。



これまでの成果・課題

園庭で身近に日々大きくなる野菜を見て、子ども達は喜んでいきます。野菜に興味を持つようになり、収穫の喜び、育てる喜びを感じているようです。登園や降園の際には足を止めて野菜の生長を見届けようとする子どもやお家の方の姿があります。

給食で自分たちが育てた野菜が出てくると、嫌いだった野菜でも食べるようになっていきます。

課題は、「ひかり農場」が園から少し離れていること。園の近くにあれば、もっと多くの作物の日々の生長を見ることができると考えています。

これからも保護者や地域の方ともっと連携し、みんなで食に関心を持つようにして行きたいと思っています。

今後の構想

園舎の周りに畑を作り、小さい頃から土に親しむことをさせ、毎日栽培した物の世話をすることでやさしい気持ちを養ったり、感謝の心を培っていきたいと考えています。

また、農園が身近にあれば、収穫・調理のタイミングなど臨機応変に対応でき、収穫したものをすぐに食べられるようになります。

これからも、子ども達が食べ物に興味を持ち、家庭で楽しく食卓を囲んでくれればと思っています。

お泊まり保育の様子（平成23年7月22日～23日）

今日は5歳児36名でお泊まり保育です。今日のお手伝いは「ひかるおやじの会」のお父さんたちです。夕食は、子ども達が菜園で育てた野菜を使ったカレーを作ります。

野菜を切るのは、もちろん子どもたちです。



私が育てた
なすを切っ
ています♪



楽しく食べない
とご飯も美味し
くないですね。
楽しい食卓を心
がけています。

おとうさん！頑張って～

お家で時々、
ご飯を作る
お手伝いを
します♡



お父さんは薪割りと火をおこすことに
汗をかいてました。

ピューラーで指
を切ったけど、
大丈夫です！



園長先生の思い



久野園長先生

20年前から菜園活動が始まりました。年長児や保護者が中心となり、一年中土とまみれています。

暑い夏休みも汗と涙と時間と戦いながら、草取りや水かけに専念。農家の方の苦勞を痛感しながら、作物を作る大変さとともに収穫の喜びに浸っています。自分の手で作り収穫したものは、立派でなくても嬉しくおいしく食べられるものです。

倉吉東保育園

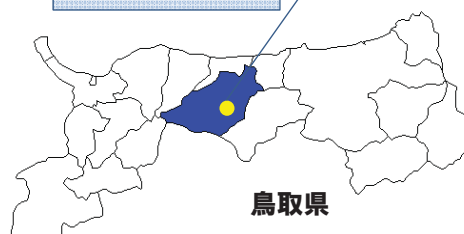
みんなで美味しく楽しく食べる

鳥取県中部の倉吉市に所在する倉吉東保育園は、併設している児童センターやこどもの発達デイサービスセンターと連携して、すべての子どもたちにそれぞれの発達に沿った必要な支援をし、乳幼児から学童まで一貫性のある「育ちの場」となることを保育の理念としています。

保育園の概要

■ 名称	社会福祉法人 倉吉東福祉会 倉吉東保育園
■ 所在地	鳥取県倉吉市上井781-1
■ 園児数・職員数	園児数:155名 職員数:31名
■ 代表者名	園長 大橋 和久
■ 電話	0858-26-3436
■ FAX	0858-26-9563
■ HPアドレス	http://kurayoshi.or.jp/hoiku/

倉吉東保育園



鳥取県

食育活動の概要

★ 活動の動機・目的

生涯にわたる人間形成の基礎を培う最も重要な幼児期に、優れた食材を正しく調理し、バランス良く食べることは、大人になった時に健康的な食習慣の基礎となることから、昭和50年の開設当初から、園では独自の献立を作成し、和食中心の食事を提供しています。また、多くの食べ物を知り、食材に触れることで、子ども達の食事に対する興味や関心の広がり、ひいては、食の大切さ、食べ物への感謝の気持ちを育みたいと思っています。

★ 活動の紹介

食事は保育の柱であり、園での食事は必要な栄養を摂取するだけでなく「みんなで美味しく楽しく食べる」ことを重視し、バランス良く食べる習慣と食文化の継承として、和食を中心とした給食を提供しています。

給食のお米は、一週間ごとに精米し、炊きたてのご飯を提供しており、添加物を使わず、薄味で素材の旨味を生かした献立です。毎日のおやつは、スキムミルクで作ったカルシウムたっぷりの特製手作りヨーグルトを提供しています。

3歳児以上は、栽培を通して食への関心を高める取組を行っており、年齢別クラスごとに、近くの畑で園児が野菜等を育てており、育てた野菜は給食に出しています。

5歳児のクラスでは、「米の栽培を通じて食の大切さを学ぶ」をテーマに取組を行っています。近くの農家から借りた田で、田植えからハゼ干し、脱穀、もみすり、精米までを体験し、収穫したお米を飯ごうで炊いて食べたりもしています。

また、自然観察などにより、自然や生命の大切さを学ぶ「ちびっ子探検隊活動」にも取り組んでいます。



これまでの成果

毎月「食育目標」を決め、食に関する様々な知識を子ども達に伝えています。昨年同様、今年度も11月の食育目標は、『感謝して食べましょう』で、『いただきます』『ごちそうさま』の意味を改めて子どもたちに知らせています。子どもたちに、「食育目標の『感謝して食べましょう』の感謝するっていう言葉の意味を知っていますか？」と問いかけると、「『ありがとう』っていうことだよ！」や「残さずに食べないといけんことだよ！」という声があり、感謝して食べることの大切さが伝わっていると感じています。

<子ども達に伝えている意味>

- ・「いただきます」は、「命」を頂きます。
- ・「ごちそうさま」は、料理のみでなく、食材そのものを作り食事を用意してくれた人たち全員への感謝の気持ちを表す。

今後の構想

子ども達が、様々な体験をし、主体的に学ぶ機会を多く持ちたいと思っています。

今は、狭い畑やプランターなどを利用して、夏野菜などを中心としたものしか栽培していませんが、園の近くの土地で年間を通じて、より身近で日常的に栽培活動を行いたいと思っています。また、牛・豚・鶏などの畜産や、魚などの水産物に対する理解を深めるために体験できる機会や、生産者の方、水産関係者の方々と交流できる機会を作りたいと考えています。

脱穀・もみすり・精米の様子（平成23年10月26日）

今は機械で、あっという間に終わってしまう

脱穀・もみすり・精米を、昔ながらの方法で挑戦しました！

脱穀

ペットボトルと割り箸を使います。ペットボトルに入れた穂を割り箸で挟み、持ち上げます。



うまく取れたよ〜♪

手が疲れたあ〜



稲刈り、ハネ干しは、10月19日にしました。

すり鉢と軟式ボールを使うものと、杵すり用の道具を使うものと二つの方法に挑戦しました。

もみすり 精米

園長先生の思い



大橋園長先生

乳幼児期から自然環境の大切さを感じとして身につけ、地球上の生命を慈しむ心や、エコロジー活動の一環としても自然体験や栽培活動が必要だと思っています。こうした活動の中で、子ども達にとって自然や生命に対する畏敬の念、「育てる」ことや「食べる」ことへの大切さを学ぶ糧になったり、意識、意欲の醸成に繋がっていければと願っています。

保育所 みのもり愛児園

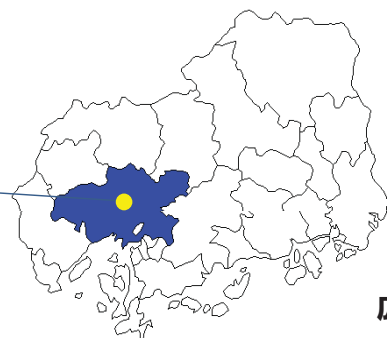
「いのち」の大切さや感謝のこころを学ぶ

広島市の保育所みのもり愛児園は 浄土真宗本願寺派のお寺の保育園で、昭和34年に川内名産広島菜農家の預かり保育からスタートしました。園訓は「なかよく やさしく げんきよく」、園の目標は、「仏の教えを通して、命の尊さを知り、自然の恵みに感謝する心や思いやりを持つ」などです。

保育所の概要

■ 名称	社会福祉法人 川内福祉会 保育所みのもり愛児園
■ 所在地	広島市安佐南区川内3丁目23番27号
■ 園児数・職員数	園児数:170名 職員数:40名
■ 代表者	園長 福島 ニール 圭治
■ 電話	082-877-5970
■ FAX	082-877-5388

保育所 みのもり愛児園



広島県

食育活動の概要

活動の動機・目的

昭和34年の開園当初から菜園活動に取り組んでいます。当時、園の周りは畑ばかりで、自然に体験ができており、それが自然と「食育」に繋がっていました。園の周りの畑は徐々に減ってきていますが、食材が育つ過程を知ることにより、食に係わるいろんな人たちへ感謝の気持ちを持って欲しいという思いから、50年以上続く体験活動に現在も取り組んでいます。「いのち」をいただくことにより、自分の「いのち」があることを子どもの頃から、教える事が大切だと考えています。

活動の紹介

園では、保育の年間計画を立てていますが、特に「食育」を意識して計画を立てているのではなく、自然と「食育」に繋がっています。

平成23年度の年間計画における指導目標（抜粋）

- 3歳児・・食べる意欲を育てる、食事に関心を持つ
食材の名前を知る
- 4歳児・・自分たちで作って食べる喜びを知る
友達と一緒に楽しく食事をする
- 5歳児・・地域で培われた食文化を体験し郷土への関心を持つ
体験をすることで感謝の気持ちと態度を培う



農業体験では、3歳児はプランターでミニトマトの栽培、4歳児はプランターで枝豆の栽培、5歳児はプランターで稲作りや畑で広島菜の栽培などに取り組んでいます。

また、園庭ですいかを栽培し、夏には収穫したすいかで「すいか割り」を楽しみました。

これまでの成果・課題

入園当初と比べると、子ども達に食べ物を大切にしようとする気持ちが出て来ています。自分で育てたものは、嫌いなものでも食べてみようという気持ちになるようで、頑張った結果、食べられるようになると、それが大きな自信に繋がっているようです。経験があるのとならないのでは大きく違ってきます。経験したことが大きな力となっています。

子どもの自主的な発想で菜園活動に取り組んで行きたいと考えていますが、時間的な余裕がなく、保育士が決めた計画に沿った取り組みとなっています。

今後の構想

食育は、栄養的な面だけの食育ではなく、それ以前の段階からの食育が必要で、引き続き、今まで同様の取組を地域の方々のご協力のもと、進めて行きたいと思っています。

また、保護者の方が留守にしている間、一人でも何かを食べることができるよう、おやつ時間に子どもでもできる「簡単クッキング」を教えており、「生きる力」を身につけさせたいと考えています。

稲刈りと広島菜の植え付けの様子（平成23年10月12日）

この日は、5歳児27名が、稲刈りと広島菜の植え付けを行いました。
はさみを使って稲を刈りました。

園庭のプランターで栽培した稲



うまく切れ
ないなあ～

広島菜の植え付け



大きく育っ
てね！



近くの田んぼで刈った稲は、
みんなで園に持って帰りました。



園から依頼があり、
稲を残し、広島菜の
畑も確保しました。
子どもたちのために、
協力させてもらって
います。

（升本さん）



お世話になった升本さんにお礼のご挨拶

園長先生の思い

今回の稲刈りの時に、田んぼにたくさんの蛙がいました。その蛙を「踏んではダメ！」と子ども達に言いました。どんな小さな生き物にも「いのち」があり、それを大切にする事を教えることが出来るのも農業体験の良さだと思っています。

子どもたちの心身ともに健やかな成長を願いながら、保育事業に頑張っている行きたいと思っています。



福島園長先生と荒木保育士

阿波市立 久勝幼稚園

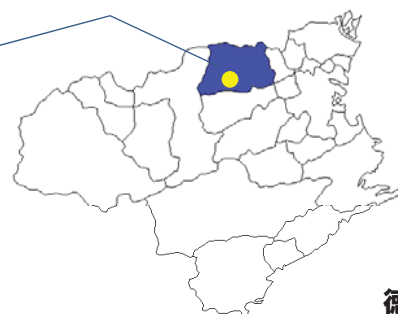
地域のつながいで知る“ふるさと”の良さ

阿波市立久勝幼稚園は、徳島県の中部に位置した阿波市に所在しています。阿波市には、国の天然記念物「阿波の土柱」があり、自然豊かな穏やかな町です。園の周辺には、保育所・小学校・公民館・JAなどが隣接し、稲・なす・トマト・ぶどうなどの栽培が盛んな静かな農村地帯です。

幼稚園の概要

■ 名称	阿波市立久勝幼稚園
■ 所在地	徳島県阿波市阿波町森沢24-1
■ 園児数・職員数	園児数:36名 職員数:5名
■ 代表者	園長 近藤 真里
■ 電話	0883-35-5087
■ FAX	0883-35-5087

久勝幼稚園



徳島県

食育活動の概要

活動の動機・目的

幼稚園は子どもが初めて出会う学校です。幼稚園では、幼稚園教育要領に示されたねらいや内容に即して指導計画を立てて教育をしています。幼児期は人格形成の基礎を培う場であり、幼稚園は『環境を通して行う教育』とされています。

当園では、「望ましい環境を整え、豊かな生活体験をさせる中で、心身の調和的発達を助長する。」を教育目標に、地域の方々とふれ合いながら、さまざまな体験に取り組んでいます。

活動の紹介

農業後継者クラブの方の協力により、平成8年から米作り体験を15年間続けています。農業後継者クラブの方の子どもさんが園に通っていたことから、この取組が始まりずっと続いています。現在は、阿波市の公民館事業として米作り体験を実施しています。

当初は、子ども達だけで田植えや稲刈りの体験をし、保護者の方と一緒に餅つきをしていましたが、「稲の生長を最初から子ども達に見せたい」とクラブにお願いしたところ、平成22年度から、しろかきの見学、もみまき、田植え、稲の生長の見学、稲刈り、脱穀、餅つき、わらを使ったリース作りなど一連の作業の体験が可能となりました。中でも、田植え、稲刈り、餅つきは保護者の方も一緒に親子で体験しています。

その他、園庭で、ジャガイモ、タマネギ、白菜、にんじんなどの野菜の栽培も行い、獲れた野菜を使い親子でカレーパーティーなども行っています。



これまでの成果

民生児童委員の方に、わらを使ったリース作りを教えていただいております。民生児童委員の方から、当園の子どもたちのわらを見る目が輝いていると言われます。それは、米作りの体験で子どもたちがわらを知っていたからで、一年を通しての米作り体験により感性が培われることを知りました。

また、米づくりだけではなく、野菜の栽培体験などにより、子どもたちは、命のつながりを五感を通して感じています。

課題と今後の構想

地域の方々の協力により、幼稚園だけでは体験することができない貴重な経験をさせていただいています。農業後継者クラブの方の高齢化など課題はありますが、あと数年経てば、米作りの体験をした卒園生が保護者となって帰ってくるので、それまでは頑張って米作り体験を続けていきたいと思っています。

餅つきの様子（平成23年11月30日）

子ども達の笑顔は
最高です！
(by 後継者クラブ)



36名の園児（4・5歳児）とその保護者、祖父母、農業後継者クラブの方々により、餅つきを行いました。



美味しい～
！(〇)！



お餅は、隣の保育園や小学校
などへ手紙と一緒に届け分け



子ども達の声援を受け、
保護者の方も頑張っています。

子ども達に食べ物
を大切にしよう
という気持ちが身
について来ました。



園庭では野菜が栽培されていました。

園長先生の思い



園での楽しい様々な体験や人との関わりを通じて、子どもたちは、阿波町の素晴らしさ、自分の育った地域で作られた野菜や米の美味しさを感じていると思っています。そのことは、ふるさととは心地よいものとして子どもたちの心に残り、ふるさとを愛する子どもに育ってくれるものと信じています。

琴平町立 南幼稚園

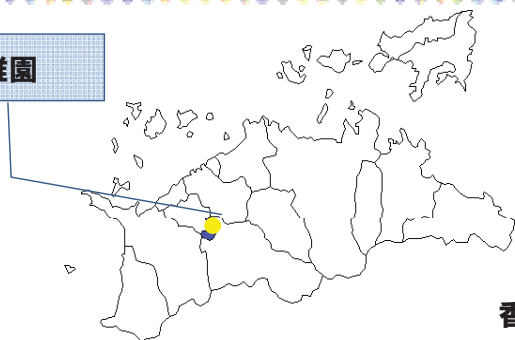
子どもに身につけさせたい「5つの力」

琴平町は、香川県のほぼ中央に位置し、全国的に有名な「こんぴらさん」(金刀比羅宮)があり、多くの観光客で賑わっています。琴平町立南幼稚園では、隣接している香川県立琴平高等学校をはじめ、琴平町立の小学校などと、互いの活動への理解を深めるため「異校種間交流」をしています。

幼稚園の概要

■ 名称	琴平町立南幼稚園
■ 所在地	香川県仲多度郡琴平町102-1
■ 園児数・職員数	園児数:21名 職員数:4名
■ 代表者	園長 久保 恭子
■ 電話	0877-73-2521

南幼稚園



香川県

食育活動の概要

活動の動機・目的

琴平町出身の料理研究家 塩田弘子さんが作詞した「たべものワルツ」を基に、平成17年から食育に取り組み始めました。子どもの頃からバランスの摂れた食生活は重要であり、平成18年度に、「食育」をテーマに研究発表を行った以降、「赤(血や肉をつくる:魚、肉、卵、豆類、乳)・黄(力や体温となる:穀類、砂糖、油脂、いも類)・緑(体の調子をよくする:野菜、海草、きのこ)」の3種類の栄養素の食事を毎日ちゃんと正しく摂りましょうと、取組を続けています。

※「たべものワルツ」・・・食品の栄養分類などを歌詞に盛り込み、子どもにも親しみやすい楽曲

世界保健機関日本財団認定曲

活動の紹介

当園では、子どもに身につけさせたい「5つの力」として、①食べ物を選ぶ力、②元気な体がわかる力、③食べ物の命を感じる力、④料理する力、⑤味がわかる力、を育てたいと思っています。入園後、生活習慣に関するアンケート調査を実施し、家庭での食事や生活習慣について把握した上で、給食時に指導をしており、併せて「早寝・早起き・朝ごはん」運動の啓発もしています。

琴平高校とは、平成14年度から「異校種間交流」を年間5~6回行っています。琴平高校の体育祭に園児が参加するほか、年に3回程度、将来保育士などを目指している高校生による、保育実習を行っています。平成22年度からは、保育実習とは違った交流方法として、“おにぎりパーティー”を実施しています。園庭の梅の木に実った梅で高校生が梅干しを作り、その梅干しを使い高校生と一緒におにぎりを作り、一緒に食べています。また、季節の野菜の栽培体験を園庭で行っています。子ども達は、日々の生長を眺めながら水やりをしています。



これまでの成果・課題

給食では、「赤・黄・緑」の食材を入れた献立を栄養士が考えています。子ども達に「赤の食材は何か」などの食べ物クイズを出すと、ほとんどの子が答えられます。家庭でも園児から保護者へ、3つの栄養素（赤・黄・緑）のことが伝えられており、月2回の「お弁当の日」は、保護者の方もこの「3つの栄養素（赤・黄・緑）」を意識して作っているようです。

調理する保護者の意識が変わることで食事が変わってきます。食事が変わることにより、子どもの体が丈夫になってくるという「良いサイクル」が必要だと感じています。

今後の構想

昨年度の“おにぎりパーティー”では、普段あまり話をしない子どもも高校生と楽しそうに話をしており、食べることは年齢差という枠を超えて楽しむことができていると感じています。

食育の取組は継続することが大切で、現在の活動をこれからも続けて行き、食育について、さらに研究したいと思っています。

おにぎりパーティーの様子（平成23年11月4日）



今日は、琴平高校の生徒さん達（28名）と園児達（19名）による交流会“おにぎりパーティー”です。



はじめに、「食育」の話

園庭では、だいこんや万葉（ひゃっか）などが栽培されていました。



梅干しのおにぎり
美味しいなあ☆



美味しそうでしょ？



高校生が作った梅干し



梅の木



みんなと一緒に食べました。

園長先生の思い



久保園長先生

「食育」とは親子でクッキングをすることだけでなく、幼児期から規則正しい食生活を身につけ、自分で自分の健康を考えて食べ物を選ぶなど健康で元気に過ごせるようになる力を「食育」と考えています。例えば、梅干しが嫌いな子に、体に良いものなので、食べられるように援助しています。園児も少しでも食べることができると達成感があり、次のステップに挑戦することができます。こういう力を「食」を通して育てたいと思っています。

飯岡保育園

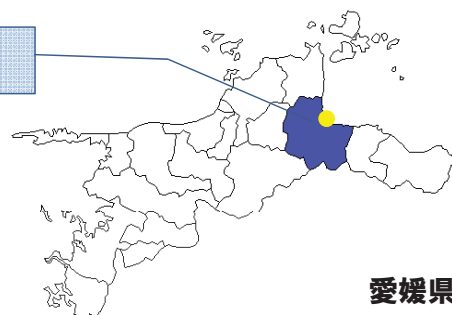
「いただきます！」に心を込めて

飯岡保育園は、愛媛県東部の西条市に所在し、北には瀬戸内海、南には西日本最高峰の石鎚山が控えています。隣接している王至森寺(おしもりじ)には樹齢1000年を超える国指定天然記念物の「きんもくせい」の木があり、秋には良い香りを漂わせながら、子ども達の成長を見守ってくれています。

保育園の概要

■ 名称	社会福祉法人 飯岡保育園
■ 所在地	愛媛県西条市飯岡3240-2
■ 園児数・職員数	園児数:106名 職員数:25名
■ 代表者	園長 瀬川 政子
■ 電話	0897-56-2381
■ FAX	0897-55-6824
■ HPアドレス	http://www.shikoku.ne.jp/iiohahoikuen/

飯岡保育園



愛媛県

食育活動の概要

☀ 活動の動機・目的

人間は、他のものの「いのち」を頂き「命」を長らえています。この摂理を、子ども達が無意識下に会得することは、幼児期においてとても大切な事だと思っています。

また、素晴らしい日本の食文化を、次世代に継承していく責任が私たちにはあります。しかし、核家族化や女性の社会進出などにより、家庭でそれを伝える事は、現実的には困難な状況です。そこで、保育園の役割がとても重要だと思っています。

☀ 活動の紹介

約20年前から、食育プログラムとして「食べ物を通し、命の尊さを肌で感じ、感謝の心を育てる」をコンセプトに、①食べることの喜び、楽しみを知る ②日本の食文化を知り、栄養バランスについて学ぶ ③もったいない精神を養うの、3本柱で食育活動を実践しています。

保育士が作ったオリジナルソング「レインボーベジタブル」を歌い、ダンスしながら、8色の野菜を食べるよう、楽しく食育を行っています。

保育園に隣接する菜園では、子ども達による菜園活動を行っており、そこで収穫したものを調理して給食に出し、みんなで食べています。食事の際には、「あなたの命をいただきます」と心を込めて挨拶をしています。

月1回、1クラスずつ保育園で朝ごはんを作って食べる「みんなでおいしい朝ごはんの日」を実施しています。また、子ども達により安全・安心なものを食べさせたいとの思いから、日々の給食では「地産地消」を実践しています。



これまでの成果・課題

野菜を育てることから、少し世話や手入れを怠ると、即座に野菜に反応が出て、収穫がなくなることを学び、みんなで水やりしている姿に、やさしい心が育っていることを実感しています。また、保護者の方へのアンケート結果では、園での食育活動が子ども達によって家庭へ伝えられていることがわかり、園の活動の大切さを知ることができました。

近頃、地球が悲鳴を上げていると思えるような現象が次々と起きています。自然の恵みへ感謝し、守り、未来へつなげて行かなければならないことを、保育園から発信し地域の人にも伝えたいと思っています。

今後の構想

「早寝・早起き・朝ごはん」が提唱される前から、朝ごはんを食べることに園では取り組んでおり、「みんなでおいしい朝ごはん」の取組は10年近く行っています。

当園では、卒園までに自分で朝ごはんを作れる子どもに育てることを目標に日々の食育活動に取り組んでいます。

鉄板焼きを楽しもう！の様子（平成23年10月26日）

秋の実りに感謝！

みんなで“さけのチャンチャン焼き”を作って食べました♡



早くできないかな～



ごはんは羽釜で炊きました。



おむすびが出来たよ♪



じょうずでしょ？
家でもお手伝いしています。

収穫したものはお供えします。



チャンチャン焼きの完成！



さつまいもの生長具合を確認しました。

あなたの命をいただきます。



園長先生の思い



瀬川園長先生

保育園は、ただ単に文字を教えるところではなく、心を育てています。「人様の子どもの魂を入れる仕事は選ばれた人しかできない」との誇りをもって子ども達と接しています。これまで地域で受け継がれてきた、日本の素晴らしい食文化を継承する役割を保育園が担わなければならなく、子ども達を守る最後の砦として頑張りたいと思っています。

みかづき幼稚園

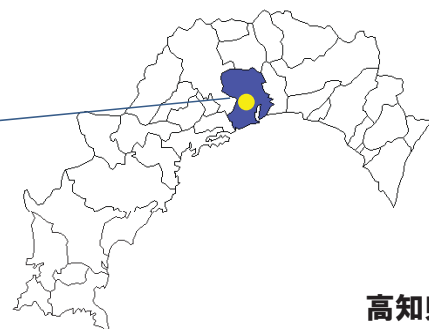
自然に学ぶ、命と食の大切さ

高知市中心部にほど近い住宅地に所在するみかづき幼稚園は、みかづき学園所有の山(通称:みかづきの森)が、園の近くにあり、子ども達は『みかづきの森』で四季折々の自然とふれ合いながら、「生きる力」の基礎とも言える「生きる喜び」を多く体験しています。

幼稚園の概要

■ 名称	学校法人 みかづき学園 みかづき幼稚園
■ 所在地	高知県高知市万々381番地
■ 園児数・職員数	園児数:185名 職員数:16名
■ 代表者	園長 吉田 好子
■ 電話	088-822-3388
■ FAX	088-822-3336
■ HPアドレス	http://www.mikaduki-k.com/

みかづき幼稚園



高知県

食育活動の概要

☀ 活動の動機・目的

スーパーの店頭に並んでいる食材しか見ておらず、食材が育った背景などを知らずに多くの子どもが食べ物を食べており、旬の時期に食する美味しさやありがたさを感じる心が欠けてきているのではないかと感じています。そこで、園では『みかづきの森』での活動を通し、季節の果樹や野菜を食することで、育てる事の大変さや収穫の喜びなどを感じるとともに、命あるものを食べて自分達が生きていることを学び、「いのち」のありがたさや、「いのち」を大切にする気持ちを育てたいと思っています。

☀ 活動の紹介

昭和48年の開園当初から平成20年度までの間、園の近くの畑でさつまいもや野菜を栽培をしており、日々の水やりや草取り、収穫などの体験を行っています。平成21年度からは『みかづきの森』での自然体験活動をスタートさせ、月に3度は園児が歩いて10分ほどの森に出かけ、自然とふれ合いながら野菜の栽培など様々な体験をしています。

できるだけ子ども達を自然とふれあわせたいとの思いから『みかづきの森』では、年間を通して何かの体験ができるようにしています。保護者と一緒にブルーベリーの植樹や収穫体験など、親子での食育活動も行っています。

収穫した果実は、その場でジュースにして飲んだり、野菜などは、持ち帰り家族で食べていただくようにしています。春のたけのこから始まり、野いちご、ビワなど、たくさんの森からの恵みを子ども達と楽しんでいきます。



これまでの成果

『みかづきの森』という自然林に、野菜畑、果樹園、ビオトープ（生物生息空間）を作り、日本で昔からある里山の風景の中での、「自然科学体験」と「食育」に取り組んできました。森での四季折々の動植物の色・形・におい・感触・温度・音から、自然科学発見・自然のぬくもり・自然の気持ちよさ・自然の恵みを子ども達は小さな体で感じとっています。

自生している野いちごを森で食べたり、育てた野菜や果樹を収穫して家に持ち帰り、森での出来事を家族に伝えながら食することが、食育に繋がっていると感じています。

今後の構想

子ども達は森の中での体験で、巨大なかんたろうミミズや、おけらなどの土の中の生物や、バッタなどの野菜をかじる生物と出会っています。そこから、人間も自然と共に生き、生きているものを食べる生き物であることを学び、自然、動植物、植物、家族を大切にする心が育ちます。絵本の中だけでは伝えきれない、わくわくする『みかづきの森』での自然体験は、子ども達の心をたくさん動かし成長させてくれます。今後も、『みかづきの森』にたくさんの実りがあり、多くの生物が集まり暮らす森にしていきたいと思っています。

さつまいもの収穫の様子（平成23年11月4日）

園児185名全員（3～5歳児）で、さつまいもの収穫体験をしました。
場所は、もちろん『みかづきの森』です！



「みかづきの森」に到着で～す



ほら！
とれたよ！



ほって！



こんなのも
見つけたよ！



大きなミミズ（シ・ホ・ルミズ）
高知では「かんたろう」と言います。



ほって！



ほって！



最後にみんなで記念撮影 カシャ



園長先生の思い



吉田園長先生と杉本理事

『みかづきの森』での体験は、子ども達の自然を大切にする心や、思いやりの心を育ててくれます。その心を大切に、社会で貢献できる人に成長して欲しいと思っています。

また、ベランダや庭、地域に緑を増やすなど、身近な生活の中での自然とのふれあいを大切に、自分が住んでいる町が世界一美しいと思えるようになって欲しいと願っています。

絵本と食育 「はらぺこあおむし」

絵本の中から食育を！

「絵本あり」・「食あり」・「音楽♪あり」のお話サークルです。

絵本をきっかけに子どもからお年寄りまで、食べることを楽しみ、絵本で癒され、心温まって欲しいという思いから、平成21年7月に結成しました。管理栄養士の有資格者や子育て中の仲間が集まって活動しています。

団体の概要

- 名称 絵本と食育「はらぺこあおむし」
- 所在地 鳥取県倉吉市
- 代表者名 衣笠 優子
- 携帯電話 090-7895-5946
- E-mail kinuyou70@gmail.com
- HPアドレス <http://blog.zige.jp/harapekoaomushi/>

絵本と食育「はらぺこあおむし」



食育活動の概要

★ 活動の動機・目的

最近の食生活の特徴として、①偏食の増加 ②孤食化の家族 ③食の安全性への疑問、などがあり、私の住んでいる所もその傾向になりつつあると危機感を感じていました。この現状の中、健康で豊かな心と体を持ち、心のこもった食卓で日々生活することは、とても大切なことだと思っています。

身近な絵本を使い、食について考えるきっかけ作りや、絵本の食材に出会える「海や山の幸」が豊富なここ鳥取県中部の恵まれた自然環境における食べ物のありがたさを次世代の子ども達に伝えたいと思っています。

★ 活動の概要

絵本の読み聞かせを中心にしながら食育を取り入れ、絵本に出てくる食べ物を使った体験型の食育を鳥取県中部を中心に行っています。

活動は保育園が多いですが、リハビリセンターなどの生活習慣病予防をテーマにした高齢者対象の食育教室でも、絵本を使ってわかりやすく読み聞かせをしています。

「子どものための食育教室」の内容は、①絵本の読み聞かせ ②食を中心にした手遊び ③食育エプロンを使った遊び ④食育工作 ⑤絵本に出てくる野菜や果物を使ったおやつを試食などを、約1時間で行っています。身近な絵本を使い、食べることにについて考えるきっかけや、野菜なども「食べてみたいなあ」と思わせるように工夫しています。難しく「食育」を考えるのではなく、遊びを通して楽しく「食」について理解してもらえればと思っています。

平成22年度は22回実施し、各会場の参加者は20名から60名となっています。



食育と絵本「はらぺこあおむし」

これまでの成果

参加者の方から、「今日は野菜のお話を聞きました。さっそく野菜がたくさん入った野菜カレーを家でも作ってみたいです。」「豆嫌いですが絵本「そらめくんのベッド」をきっかけに豆に再挑戦！してみようと思った。」などの声を聞かせていただいています。

絵本からとび出した食材やお菓子は忘れられないようで、その絵本をめくるたびに思い出しているようです。

「ありがとう。また、来てねえ」の声や喜ぶ顔を見るのが楽しみです。

今後の構想

子ども達や参加者の方々の心にしっかりと届く絵本の読み聞かせを目指します。そして絵本の世界で遊び、食に関する疑似体験をすることで、さらに「食べたいな～」と思ったり、みんなが笑顔で、心豊かな生活を送ることができるような活動を行いたいと考えています。

また、ひとりでも多くの方に私たちの活動を知っていただき、絵本や食に興味や関心がある方など、この活動に賛同していただける方をさらに増やして、活動の幅をひろげて行きたいと思っています。

倉吉市立山守保育園での活動の様子(平成23年7月28日)

倉吉市立山守保育園で「子どものための食育教室」を開催しました。

今回のテーマは「おやつにも野菜を！」です。

絵本をきっかけに野菜を食べてみたいなあ～と思ってくれたかな？



顔をつけているのは、野菜にも命があることを伝えるためです。



この日のメニューは、
キャロット牛乳かんのフルーツ添え♪



園庭には稲が植えられています。



楽しかった！
また、来てねえ～！！

平成21年度から、絵本と食育「はらぺこあおむし」の方に来てもらっており、子ども達は、来てくれる日を楽しみにまっています。食べるだけではなく、絵本を見ながら「食」への関心を引き出してくれています。

(by 山守保育園副園長)

代表者の思い



現在子育て中(5人の母)で「絵本と食育」のボランティア活動をしています。

「一家団欒での楽しい食卓」は、私の母としての食に対する考え方の原点でもあります。ただお腹がいっぱいになればいい！だけでなく、次世代の子ども達に伝えなくてはならない「食」がたくさんあると思っています。

育児の悩みや日ごろの思いを、いっしょに語り合いながら、多くのみなさんとお会いすることができれば幸せです。

代表 衣笠さん(写真右)

社団法人 岡山県栄養士会

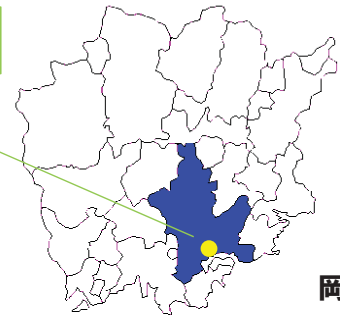
食生活を見直すきっかけづくりを提供

岡山県栄養士会は、すべての人々の「自己実現をめざし健やかによりよく生きる」とのニーズに応え、保健、医療、福祉及び教育等の分野において、専門職業人としての倫理と科学的かつ高度な技術に裏づけられた食と栄養の支援・指導を通して、地域住民の健康づくりに寄与する活動を展開しています。

団体の概要

- 名称 社団法人 岡山県栄養士会
- 所在地 岡山市中区古京町1-1-17
- 代表者名 会長 森 恵子(平成22年度会員数:1,742名)
- 電話 086-273-6610
- FAX 086-273-6667
- HPアドレス <http://www2.ocn.ne.jp/~eiyoussi/>

岡山県栄養士会



岡山県

食育活動の概要

★ 活動の動機・目的

昭和59年の設立以来、生涯の中で成長期の食生活はとても重要と考え、乳幼児期の「食育」に取り組んでいます。第2次食育推進基本計画の重点課題として、子どもから成人、高齢者に至るまでライフステージに応じた間断ない食育を推進する「生涯食育」が明記されています。当栄養士会では、子どもの頃から「食育」を受けていると、大人になり食を選ぶ時に知識が活かされるのではないかと考え、活動に取り組んでいます。

★ 活動の概要

幼児期の子どもに対する食育活動では、幼稚園や保育園で子どもや保護者の方に対して、各地域で「食育講習会」を行っています。

平成22年度の「食育講習会」は20回開催し、延べ1,912名の方の参加がありました。岡山市支部では、「食育講習会メニュー」を作成し、要望に応じ「食育講習会」を行っています。

また、乳児期の子どもに対する取組は、岡山県が県下4ヶ所で開催しているイベント「はぐくみ岡山・おぎやっと21」で、離乳食の作り方のデモンストレーションや試食、離乳食相談などを行っています。

その他、「岡山栄養ケア・ステーション」を設置し、栄養や食事についての相談を受けています。

「岡山栄養ケア・ステーション」

毎週木曜日 13時～16時 Tel : 086-273-6615



▲岡山市支部作成「食育講習会メニュー」

これまでの成果

「食育講習会」では「昔のおやつ」を、「はぐくみ岡山・おぎやっと21」では「おかゆの炊き方」の講習会をそれぞれ行い、おかゆをお米から炊いた時には、お母さん方から「家でも作ってみたい」「勉強になった」などの感想があり、好評を得ています。

また、保護者の方だけではなく、子ども達にも感想を書いてもらい、次の活動に活かしています。

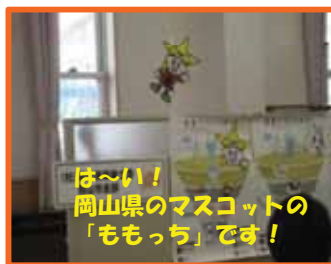
課題と今後の構想

会員は、それぞれの業務に携わりながら栄養士会活動をしていますが、増加傾向にある「食育講習会」への要望に沿うように努力しています。今後は、会員の専門性を生かした乳幼児期から高齢者までの健康増進を進めていきたいと思っています。

御南幼稚園での取組の様子(平成23年10月28日)

御南幼稚園(岡山市北区今保)で、約30名の保護者の方を対象に「食育講習会」を開催しました。

ペーズサート「バランスよく食べよう!」の始まり始まり♪



※「ももっち」は、岡山を代表するヒーロー「桃太郎」をアレンジして誕生したマスコット



「お菓子などに含まれる油の量」の話もありました。

こんなにたくさん油が入ってます。



今日の試食は洋風味噌汁

- ・牛乳を少し加えるのがみそ!
- ・季節の野菜や冷蔵庫にあるものを入れて!



おいしい〜♥

保護者の方の要望により「食育講習会」を実施し、栄養士会の方に来ていただきました。このような機会を設けることにより、日頃の食生活を見直すきっかけ作りになります。

(by 御南幼稚園PTA会長)

代表者の思い



森 会長

私たち、管理栄養士・栄養士は、専門職業人、専門職としての自覚を持ち、職業倫理に基づいて業務を進めることが求められており、多方面にわたる研修会を開催し、日々研鑽に努めています。私たちの活動が、皆様の食生活を見直すきっかけづくりとなれば幸いです。

岡山県栄養士会のキャラクター
「うさこ先生」▼



三次農業協同組合

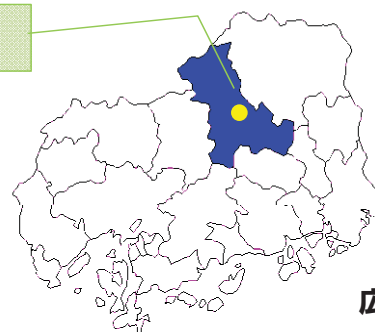
子どもは地域の宝

広島県の北部の三次市に本店を置く農業協同組合で、組合員数は21,783人、店舗数は11店舗あります。事業区域は、広島県三次市(甲奴町を除く)で、広島市に、アンテナショップ『三次きん菜館』などを設置し、都市住民と交流を深めながら農業振興を推進しています。

団体の概要

- 名称 三次農業協同組合
- 所在地 広島県三次市十日市東三丁目1-1
- 代表者名 代表理事組合長 村上 光雄
- 電話 0824-63-9974
- FAX 0824-62-6733
- HPアドレス <http://www.ja-miyoshi.or.jp/>

三次農業協同組合



広島県

食育活動の概要

★ 活動の動機・目的

「食」とそれを支える「農」について、五感を使い体験から学ぶ「食農教育」は、命と出会い、命と自然と食のつながりに気づくことができる食育として、幼児期の心身の成長などに大きな影響があると考えています。

J A三次では、食育基本法の施行前から農業体験活動や地域と連携した活動に取り組むなど、子ども達に心の豊かさを伝えていく J A三次らしい食農教育に取り組んでいます。

★ 活動の概要

平成13年度、「ちゃぐりんキッズクラブ」を次世代対策として結成し「食農教育」の取組を開始しました。平成14年以降は、支店を中心に地域の特色ある活動を展開しています。当初は58名だった参加者は、平成22年度では、2,436名となり食農教育活動の輪が広がってきています。

取組開始当初は、小学生を対象に実施していましたが、学校や行政、地域の方と連携を育んでいく中で、地域自治会や民生委員の方からの要望もあり、数年前からは3地区(和田、吉舎八幡、河内)の保育所も一緒に実施しています。平成23年度は、管内21会場で「ちゃぐりんキッズクラブ」を開催し、各会場で地域の特産品(水稻、サツマイモ、小麦等)を使った農業体験などの取組をしています。

三次市立和田保育所では、6月に田植え、9月に稲刈り、12月に餅つきと年間を通し食農教育に取り組んでいます。



これまでの成果

J A女性部や地域の方々、また、保護者や地域関係者が一緒にこの取組を行うことで、地域の連携や結びつきが強化されたと感じています。

地域の方々には、ほ場の提供の他、「ちゃぐりんキッズ」ののぼり旗や看板などを作っています。

また、この取組を行うにあたり、三次市の教育委員会にも多大な理解とご協力をいただいています。

今後の構想

保育園（所）・小学校と連携し、地域が一体となった「食農教育」の取組を引き続き推進して行きたいと思っています。

また、現在、J A三次管内24小学校のうち16小学校と連携して取組を行っておりますが、他の8小学校でも取組への理解が得られるようにしていきたいと考えています。

稲刈りの様子(平成23年9月15日)

三次市立和田保育所の園児（6歳児、18名）と、三次市立和田小学校の児童（5年生、13名）により、稲刈り体験をしました。



おずかしい
なあ～

こうして、
刈るんだよ。



小学生のおにいちゃん、おねえ
ちゃんと仲良くランチタイム



6月7日の田植えの様子

ほ場が保育園の前ということもあり、3年前から「ちゃぐりんキッズクラブ」に参加させていただいています。

農家の子でも、田植えや稲刈りはしたことがない子どもが多いので、これでお米ができるということが理解できれば、想いが違ってきます。

(by 和田保育所所長)

担当者の思い



和田 由紀さん

J A三次では、行政・教育委員会・学校・保育園（所）・地域住民組織等と連携を図り、支店を中心として地域一体型の食農教育活動を推進しています。『子どもは地域の宝 地域の子どもは地域で育てる』という意識の統一を図り、様々な出会いと感動を創り出す場の提供をしていきたいと思ひます。そして、自然と共にある農業の素晴らしさや故郷を感じてもらえたらと思ひます。

「いのち」を体感できる場を提供

NPO法人 きららの里は、山口県美祢市を中心に活動している、会員数35名の団体です。

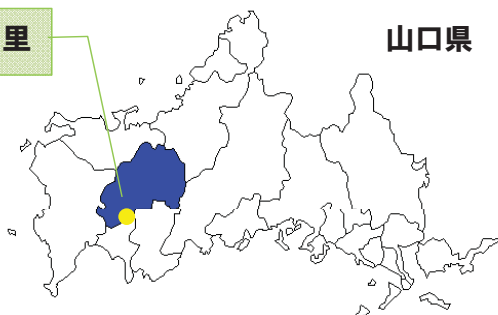
平成13年、山口県で開催された「きらら博」を通して知り合った仲間たちで立ち上げました。「農業・福祉・教育」を活動のテーマとして、「いのちのきらめき」を体感できる場を提供しています。

団体の概要

- 名称 NPO法人 きららの里
- 所在地 山口県美祢市伊佐町河原466番地
- 代表者名 西山 美貴
- 電話 0837-53-0500
- FAX 0837-52-5396
- HPアドレス <http://www.socio.gr.jp/kirara/>

NPO法人 きららの里

山口県



食育活動の概要

★ 活動の動機・目的

便利で快適な生活が実現できるようになってきた一方で、いのちあるものとの関わりが少なくなり、こうした経験から得られるはずの「いのちあるものへの思いやり」が失われつつあります。このような現状を少しでも変えるために、目で見、耳で聞いて、鼻でかいで、舌で味わって、手で触って、「いのちを体感」することが多くの人たちに必要だと考えており、体験活動の要望があれば、受け入れをしています。

★ 活動の概要

「農業・福祉・教育」の3つをテーマとして、
①農業・・・子ども達を対象とした食農教育、
②福祉・・・障害者の方への乗馬体験、
③教育・・・たけとんぼ作りなどの自然体験学習
などの活動をしています。

10年前、「NPO法人 きららの里」の立ち上げに際して、地元の伊佐中央幼稚園から協力依頼があり、幼児を対象とした農業体験に取り組むこととなりました。伊佐中央幼稚園では、じゃがいもの植え付け、たまねぎの収穫、さつまいもの植え付け、さつまいもの管理、など、年に8回体験を実施しています。

さつまいもの管理のひとつに「蔓返し」という作業があり、葉に栄養がいくのを防ぎ、より大きな芋を収穫する為の作業です。同時に茎を収穫し、茎も食べられる事も畑で学びました。子どもたちには、植え付けと収穫体験だけではなく、ちゃんと管理することにより収穫につながることも学んでもらいたいと考えています。



これまでの成果・課題

田舎に育っていても、農作業を知らない保護者もありますが、子どもが体験をすることにより親の意識が変わってきています。子ども達は、体験をすることにより、食への興味が出てきたり、いろんな応用ができるようになっていっていると感じています。

未就学児への農業体験だけでなく、小学生を対象に自分で作ったものを販売するまでの体験をさせたいと思っていますが、小学校はカリキュラムがびっしり組まれていてなかなか難しいのが実情です。

今後の構想

おじいちゃん・おばあちゃんとの関わりを持つことにより、おじいちゃん・おばあちゃんの知恵を伝えていきたいと思っています。地区の世代間交流会が開催されていますが、体験活動にも関わってもらえればと思っています。

また、伊佐中央幼稚園だけでなく、他の幼稚園等からの要望があれば、受け入れていきたいと思っています。

イモの管理(茎の収穫)の様子(平成23年9月15日)

きららの里の畑において、伊佐中央幼稚園の園児50名(5歳児)が、春に苗を植えたイモの茎の収穫をしました。



バスに乗って、子どもたちがやって来ました。



こんなに大きくなったよ～



明日は、この茎で、味噌汁をつくるんだ！

今日は苗植えの後、久しぶりに来たので、生長したことを大変喜んでいるようです。嫌いなものでも自分で作った物は、一口でも食べようとしています。このような場があることは、子ども達にとっては貴重な体験になります。

(by 伊佐中央幼稚園の先生)



できあがった味噌汁★



代表者の思い



西山 美貴さん

食育の基本は食卓です。忙しい中でも、家族と一緒に食卓を囲む時間をする事が重要で、できるだけそういった時間を取ることにしています。

子ども達に食卓でしつけをしたり、人を思いやる心を学んで欲しいと思っています。

自然の中で生き物とのふれあいなどを通じて、学び、癒し、感動する体験を多くの子ども達に経験してもらうお手伝いができれば幸いです。

とくしま食育推進研究会

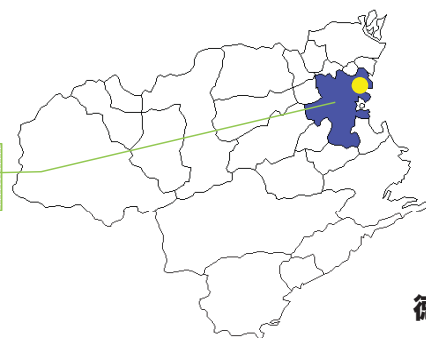
クイズやダンスで「楽しい食育」

平成18年に設立された食育ボランティアグループです。現在の会員数は15名で、管理栄養士を中心に徳島県内の幼稚園や保育園(所)で「楽しい食育」活動を進めており、岡山県、島根県、兵庫県など活動の範囲は広まりつつあります。その取組により、平成21年度「食育推進ボランティア表彰」を受賞されました。

団体の概要

- 名称 とくしま食育推進研究会
- 所在地 徳島市 上八万町西山1368
- 代表者名 野間 智子
- 電話 088-644-3181
- FAX 088-644-3181
- HPアドレス <http://tssk2007.okoshi-yasu.com/>
- Eメールアドレス ajnoma1989224@deluxe.ocn.ne.jp

とくしま食育推進研究会



徳島県

食育活動の概要

★ 活動の動機・目的

徳島県では、平成5年から平成18年まで「糖尿病死亡率全国ワースト1位」を記録しており、「糖尿病対策」は徳島県の最も重要な健康課題のひとつとなっています。とくしま食育推進研究会では、生活習慣病を予防するためには、幼児期からの食育が必要であることから、幼稚園や保育園(所)で子どもやその保護者を対象として食育活動に取り組んでいます。

★ 活動の概要

幼児が楽しみながら理解できるよう独自に開発した、「手コマ式食育プログラム」や「ホネホネダンス」を活用し、楽しみながら食育の知識を身につけてもらおうと、徳島県内の幼稚園や保育所、最近では高齢者の方に対しても普及活動をしています。

まずはじめに、身近な飲み物に砂糖(スティックシュガーに換算)がどのくらい入っているのかを、クイズ形式で子ども達に答えてもらっています。次に、「手コマ式食育プログラム」です。手の形をした大きなボードと食材や料理のカードを使い、バランス良く食べることの大切さを教えています。最後に食育ダンス、童謡「かえるの合唱」の替え歌に合わせた「ホネホネダンス」をみんなで元気に踊っています。

- ☆お父さん指・・(親指:ごはん・パン) 一番力持ち、食べると力がもりもり出る
- ☆お母さん指・・(人差し指:野菜)いつもみんなの事を気にしてくれる、体の調子を整えてくれる
- ☆お兄さん指・・(中指:肉・魚・卵)一番背が高い、食べると体を大きくしてくれる
- ☆お姉さん指・・(薬指:果物)肌がすべすべになる
- ☆赤ちゃん指・・(小指:牛乳・ヨーグルト・チーズ)赤ちゃんの好きなミルクは骨を丈夫にするカルシウムたっぷり



これまでの成果・課題

食育プログラムによる指導で、保護者や幼児共に「食」に対する意識の向上が見受けられ、「食事バランス」を重視する傾向が強まり、お弁当が栄養バランスを考えたカラフルなものになるなど、食生活の改善が見受けられるようになっていきます。

幼稚園や保育園（所）では、栄養バランスを三色分類で教えているところがあります。その場合でも工夫することにより、食事バランスガイドを活用した、手コマ式で教えています。

今後の構想

聾学校などの支援学校において食育のニーズが高まってきており、健常児と同様に「食育」の普及啓発が必要と感じています。聾学校では手話を交えての指導を予定しており、このような活動をもっと広めていきたいと思っています。

久世第二保育園及び真庭市での活動の様子(平成23年11月2日)

真庭市保育園連絡協議会の公開保育の一環として、久世第二保育園で子ども達への食育活動の後、真庭市内の保育士・栄養士及び調理師（約40名）を対象とした食育研修会で講演を行いました。



カルシウムの声が〜♪
聞こえてくるよ〜♪



好き嫌いしないで、
バランス良くたべようね〜

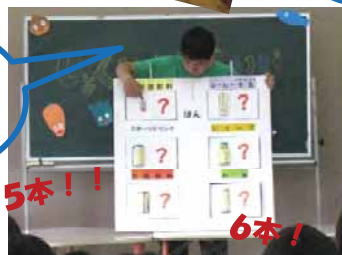


これは、何の指かな？

午後からの講演の様子



砂糖の量はどのくらいかな？



クイズは大変盛り上がりしました！

乳幼児期の望ましい食生活は重要で、5歳までの子どもを預かる私たちの責任は重く感じています。今日は、手コマ式を作った方々に来てもらい、クイズやダンスなどをしていただきました。子ども達も大変喜んでいました。
(by 久世第二保育園園長)

代表者の思い



代表 野間さん（写真中央）

「手コマ式食育プログラム」や「ホネホネダンス」を実際に行い、子ども達の反応に非常に手応えを感じており、食育を通して「生きる力」を育てることができると感じています。食育の取組は、一度で終わってしまうのではなく、継続性が重要です。今後とも、「来るもの拒まず」の精神で、メンバー全員で普及活動を頑張ってまいりたいと思っています。

出雲市健康増進課

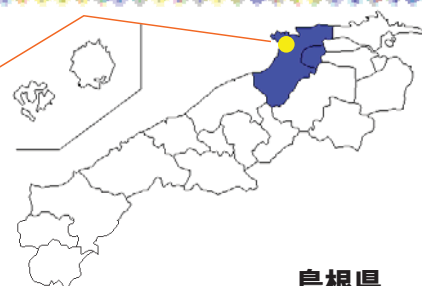
野菜大好き！親子で野菜作り

出雲市は、人口約17万6千人の「えんむすびの神」として全国に知られている出雲大社がある町です。
出雲市では、「食育のまちづくり条例」を制定し、自然に恵まれた出雲地域において、健康で豊かな市民生活が育めるよう、「食育」の視点からの総合的なまちづくりの推進に取り組んでいます。

団体の概要

- 名称 出雲市 健康増進課
- 所在地 島根県出雲市今市町70
- 担当者名 林 恵子・飯塚 陽子
- 電話 0853-21-2211(代)
- FAX 0853-21-6965

出雲市



島根県

- HPアドレス <http://www.city.izumo.shimane.jp/www/toppage/00000000000000/APM0300.html>

食育活動の概要

♥ 活動の動機・目的

平成17年12月に「出雲市食育のまちづくり条例」を制定し、平成18年6月に「出雲市食育のまちづくり推進計画」を策定しました。推進計画では、ライフステージごとに食育の推進に取り組むこととしています。幼児期の食育は親子で体験することに意義があると考え、平成17年度から親子で野菜作りを体験する「わくわく食育体験事業」を実施しています。野菜作りの楽しさ、大変さ、収穫の喜び、旬の野菜のおいしさなどを体験し、野菜に親しむとともに、食を大切にする心を育てたいと思っています。

♥ 活動の概要

平成17年度から実施している「わくわく食育体験事業」は、今年で7年目を迎えました。当初から、島根県立出雲農林高等学校と連携し、出雲農林高校を会場に農業体験と調理実習を行っています。この事業では、年度毎に参加者（就学前の子どもとその保護者）を募集し、だいこん、はくさい、かぶなどの秋野菜の種まきや苗植えから、草取り、間引き等の作業、収穫、そして、育てた野菜を使い調理して味わうまでの一連の作業を、9～11月までの間に4～6回開催しています。

平成23年度は、市内在住の4～6歳児と保護者9組が参加しており、農作業の指導は、出雲農林高等学校植物科学科作物栽培コースで野菜専攻をしている3年生13名が行っています。

出雲市ではこの他、小中学生によるお弁当コンテスト「お弁当オリンピック（おべりんぴっく）」の開催や、関係団体の協力のもと食育講座の開催など食育の推進に取り組んでいます。



これまでの成果・課題

昨年度の参加者の方からは、「作ることの大変さなど、子どもなりに気づき発見することがあって良かった」「高校生の皆さんと交流が出来て喜んでいた」「親子で参加することで、共通の話題ができ、コミュニケーションが取れた」などの意見がありました。

このような事業に参加している親子は、ほとんどが「食」に関心がある親子です。「食」についてあまり関心のない親子が、もっと多く参加してもらえるよう、開催方法など検討していく必要があると考えています。

今後の構想

保育園や幼稚園とも連携して、今後も出雲農林高校の協力のもと、食に係わる体験活動に取り組んでいきたいと思っています。

第2回「わくわく体験事業」の様子(平成23年10月6日)

「わくわく体験事業」の第2回目です。

第1回目(9月12日)に種をまいた大根とかぶや、苗を植えたはくさいとキャベツの畑の管理(草取り、間引き等)を行いました。



畑は家族ごとに分かれていて、看板が立てられています。

おねえちゃんと、
一緒に楽しい
なあ〜



楽しみで
前の日から、
わくわく♪
です。

最後は、男子生徒さんによるクイズ大会で盛り上がりしました。



はい!!!
わかった!!!

・家では、祖父母が畑をしていますが、収穫された野菜しか見ていないので、その間の管理が大変な事を教えたいと思い参加しました。(by 保護者の方)

・考えている事と現実の違いに苦労しているようですが、この指導を通じ、生徒も良い経験をさせてもらっています。(by 出雲農林高校 片山先生)



本日のメニュー
・秋野菜のポトフ
・白菜サラダ

育てた野菜を使って料理を作りました。(11月17日)

担当者の思い



事業を通し子ども達と高校の生徒さんが仲良くなり、子どもから生徒さんへ手紙やプレゼントが届いているようで、ほのぼのとした繋がりができています。体験以外のところでも得たものがあるようで、食べ物大切さと共に、やさしい心も芽生えているようで、嬉しく思っています。

◀ 出雲市の担当者と農林高校の先生と生徒のみなさん

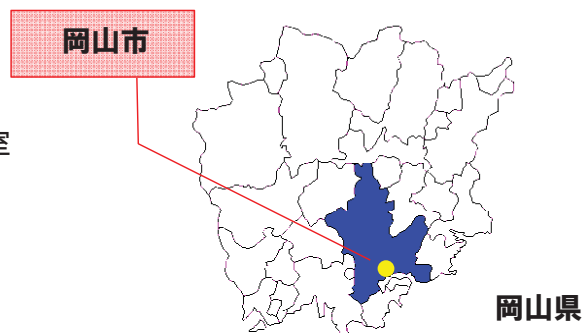
岡山市農林水産課

農業体験を通して食育を推進

岡山市は岡山平野の中央部に位置する、人口約71万人の政令指定都市です。温暖な気候で日照時間も長く「晴れの国」をキャッチフレーズとしています。岡山市役所経済局農林水産課は、3係・1室で構成され、農林水産業の振興に励んでいます。

団体の概要

- 名称 岡山市役所
- 所在地 岡山市北区大供1丁目1番1号
- 担当部署 岡山市 経済局 農林水産課 地域農業振興室
(代表者) 課長 森本 章男
- 電話 086-803-1346
- FAX 086-803-1739
- HPアドレス <http://www.city.okayama.jp/>



食育活動の概要

活動の動機・目的

子ども達が、作物の植え付けから収穫までの一連の農作業体験を行うことにより、自然の尊さや食料の大切さを学び、また、食や農業への関心を高めることを目的に「子ども食農体験事業」を平成10年度から実施しています。

「食育基本法」が策定される以前から、農林水産課で取り組んでおり、農業の担い手づくりや地域の活性化に向けた「食育」を推進しています。

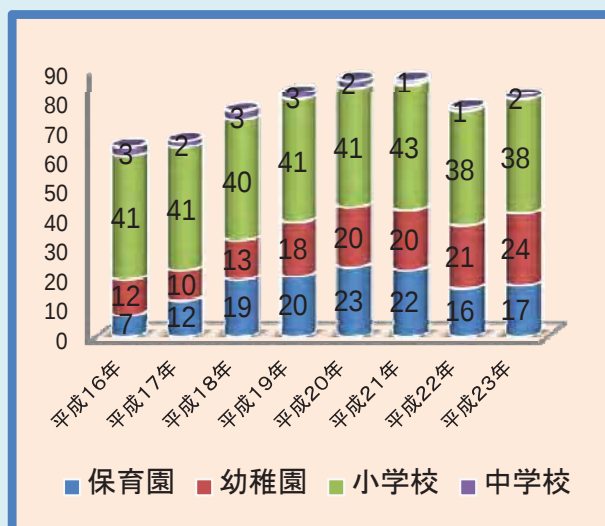
活動の概要

「子ども食農体験事業」は市内の幼稚園・保育園、小学校、中学校を対象とし、栽培指導を行う指導者に対する謝金を交付しています。

事業の実施者は、ほ場を確保し、植え付けから収穫までの一連の農業体験を行うこととしています。また、平成22年度からは市内の畜産農家が製造した堆肥を希望校に配布しています。

平成23年度は、41の幼稚園や保育園が「子ども食農体験事業」を活用して農業体験に取り組んでいます。水稻では田植え・草取り・稲刈りなどの作業、さつまいもでは、苗植え・水やり・草取り・収穫などの作業を行っています。

また、毎年「岡山市食農教育研修会」を開催し、この事業における事例発表会や講演会を行い、「子ども食農体験事業」の普及・啓発に努めています。



「子ども食農体験事業」実施校・園の推移

これまでの成果・課題

事業に取り組んだ幼稚園や保育園でのアンケート結果では、「食への関心が出た」「収穫の喜びを体験できた」「保護者の方と一緒に取り組めて、食育の良い機会になった」「水やりや草取りをしないと収穫に繋がらないことがわかった」などの意見がありました。嫌いなものでも食べられるようになったり、食べることに意欲的になったりしたようです。

しかし年々、農家の方の高齢化や離農などにより、指導者や学校や園の近くのほ場の確保が難しくなっています。

今後の構想

「子ども食農体験事業」の取組を行う学校・園の数は、近年あまり伸びていませんが、支援を受けずに独自に取り組んでいる学校や園も多くあります。今後もこの事業による支援を続けていきたいと考えています。

また、地域における農業や食への理解と住民相互の交流を深めるため、地域の経験豊かな高齢者クラブが中心となり、子ども会や町内会など地域住民と連携しながら農作業や調理体験等を行う取組を支援する「地域地産地消推進モデル事業」を平成23年度から開始しました。

旭操幼稚園での農業体験の様子(平成23年10月27日)

旭操幼稚園では、岡山市の「子ども食農体験事業」を活用し米作りに取り組んでいます。6月に田植えを行った稲の稲刈りを園児57名とその保護者の方が体験しました。



女子サッカーの選手も見守ってくれていました。



地域みなさんに、育ててもらっています。(感謝！)

うまく、刈れないなあ



米作りの体験は、地域の方の協力がなければできません。子どもたちには、田植えをすれば勝手に大きくなるのではなく、稲刈りまでの間にもいろんな作業があり、地域の人たちがお世話をしてくれていることを伝えていきます。来年度もこの事業を活用させていただきたいと思っています。(by旭操幼稚園園長)

代表者の思い



森本 章男さん

農産物の生産現場と家庭の食卓の距離が広がる中、農業体験などを通して、食や農業の知識を養うことや共同で作業をすることの重要性などを学んでいくことは、人の成長に大きな恩恵をもたらしてくれるものと思います。当市では、「食農教育の推進」を重点施策と位置付けており、引き続き、支援を行っていきたいと考えています。

府中市乳幼児期食育向上推進委員会

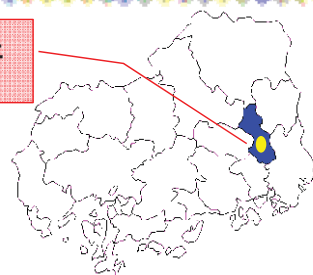
担当者間の連携で食育活動をレベルアップ

府中市は広島県の東南部に位置し、人口約43,000人の未来を拓くものづくりの街で、府中家具が有名です。府中市乳幼児期食育向上推進委員会は現在、公立の10保育所、私立の4保育所の食育を担当している者など会員20名で活動しています。

団体の概要

- 名称 府中市乳幼児期食育向上推進委員会
- 所在地 府中市府川町315
- 担当者名 府中市役所児童課保育係 藤木 敬子
- 電話 0847-43-7265
- FAX 0847-46-3450

府中市乳幼児期食育向上
推進委員会



広島県

食育活動の概要

♥ 活動の動機・目的

平成17年に「食育基本法」が策定された時に、保育所の調理員が「食育」について、みんなで考えながら何かをしてみようと思い、府中市乳幼児期食育向上推進委員会を設立し活動を始めました。

市内の保育所（園）食育担当者が連携し、情報を共有することにより、市内の保育所（園）の食育活動の向上を目指しています。

また、保護者へ啓発を行うことにより、家庭で「食育」について考えるきっかけ作りとなればと思っています。

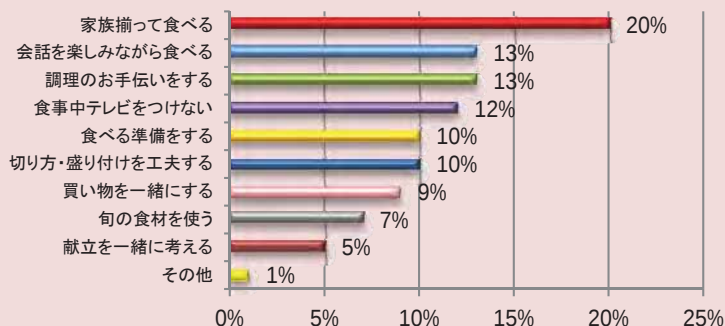
♥ 活動の概要

乳幼児期食育向上推進委員会では、毎月1回企画委員会を開催し、食育推進事業の企画の検討をしています。推進委員会は、年に6回程度開催し、情報交換などを行っています。定期的に「食育アンケート」を実施し保護者へも食育の啓発を行っています。

また、推進委員の協力でメニュー集を作成し、全保育所（園）の保護者に配布していますが、平成22年度からは各家庭のおすすめレシピを募集してメニュー集を作成しています。

その他、「わいわいクッキング」を府中市内の年長児親子を対象に実施しており、今年度は、中学校区別に開催し、就学を控えた地域の親子が交流できる機会を設けています。

食事を楽しく食べるために、家庭で工夫していることは？（複数回答）
回答数：1,109人（市内保育所等の保護者）



平成23年度アンケート結果から抜粋

府中市乳幼児期食育向上推進委員会

これまでの成果・課題

担当者間の横の連携による情報共有で、お互いの食育実践をもとに交流しながら、次の取組に活かしており、市内の保育所の食育活動のレベルアップになっています。

市内の全保育所（園）の保護者を対象に行う「食育アンケート」は、子どもや家庭の課題をつかみ、食育の実践に生かすことができます。また、結果を全保護者に返していくことで家庭における食育にもつながっています。

年長児親子を対象にした「わいわいクッキング」を土曜の午後に開催していますが、より多くの人に参加してもらうことが今後の検討課題です。

今後の構想

保育所（園）だけでなく、子育て中の家庭や地域にも食育の実践が広がるような活動を工夫していきたいと思います。

また、職員の専門性を高め資質向上につながる研修会の開催や、学校や保健課など関係機関との連携により、推進委員会機能の向上を図っていききたいと考えています。

府中市立栗生保育所の食育活動の様子(平成23年8月4日)

府中市乳幼児期食育向上推進委員会では、各保育所等における食育活動を広めるために、事例を収集しています。

この日は、府中市立栗生保育所の「夏野菜の収穫とピザ作り」の取材に行ってきました。

トマトソースは、
保育所で育てた
トマトを使い、
前日に作りました。



おいしいピザ
になぁ〜れ！

真剣なん
です私。
話しかけ
ないで
ね。



府中市乳幼児期食育向上推進委員会でいろんな情報を提供してもらい、それを参考に取組の範囲が広がっています。担当者間で情報を共有することは大切なことだと思います。

(by 栗生保育所所長)

担当者の思い



藤木 敬子さん

乳幼児期は、食の基礎を作る時期であり、「食」は生活の中で大切なものです。乳幼児期の食育を推進するために、みんなが連携し同じ意識で食育活動を推進して行きたいと思っています。

子ども達が大人になっても「食」を楽しいと感じ、自分の体のことを考えられる人になって欲しいとの思いで活動しています。

村山中藤保育園（東京都）

幼児期から味覚を育てる

東京都武蔵村山市に所在する、社会福祉法人 高原福祉会 村山中藤保育園の保育目標は、「人としての機能発達を重視し、自ら遊びに挑む子供を育む。」で、園児の主体性を大切にしたい保育を行っています。

村山中藤保育園における食育活動は、2010年に「第59回読売教育賞最優秀賞」を受賞しました。

保育園の概要

- 名称 社会福祉法人 高原福祉会 村山中藤保育園「櫻」「白樺」
- 所在地 東京都武蔵村山市中央1-28-1・武蔵村山市残堀4-90-1
- 園児数・職員数 園児数:「櫻」250名「白樺」110名 職員数:「櫻」36名「白樺」21名
- 担当者(代表者) 理事長 高橋 保子
- 電話 「櫻」042-562-3141 「白樺」042-520-7151
- FAX 「櫻」042-562-3142 「白樺」042-520-7150
- HPアドレス <http://business2.plala.or.jp/muranaka/>

村山中藤保育園



食育活動の概要

活動の動機・目的

昭和50年代から障害児が増えたことに疑問を持ち始め、食品添加物と障害の増加が深い関係があるのではないかと感じていました。幼少期の良い食生活は、生涯その子の健康を守ることにあります。

乳幼児期からの鋭敏な味覚を大切に、食品添加物を含まない安全な食事を出すことを最も大事にしながら、保育に取り組んでいます。

活動の紹介

散歩時に必要とする時のドロップ、おしゃぶり昆布、スルメ以外は、市販の食べ物が子ども達の口に直接入ることはありません。食事は和食を中心とした献立で、吟味された食材ですべて手作りしています。

食事の時間も、家庭で7時に朝食を食べ、保育園では午前食11時、午後食15時に、夕食は家庭で19時に食べる、4時間の間隔をあけて空腹感と食欲を促しています。

米は胚芽米を使い、地元で採れた野菜を使う地産地消を実践しています。

園の菜園で栽培しているインゲンを収穫した時は、茹でたインゲンと炒めたインゲンの食べ比べをしてみました。園で野菜を作ることにより、苦手な野菜にも興味を持つようになったと保護者から報告がありました。

これまでの成果・課題など

在園児はもちろん、卒園児にも肥満児はおりません。また、主体性があり、どうどうと生きている感じがすると小学校の先生方から褒めていただいています。

併設の地域子育て支援センターでは、毎週一回、園の食事を試食できるようにしており、保護者の方からは食事に関心を持ち、食材の幅が広がったと言っています。

家庭における食習慣の支援では、親にどのようにして「食の大切さ」を伝えるのが課題となっています。園では、給食の試食会の際にレシピを配布するなどして、親が作ってみたいくなるよう工夫をしています。

きのみむすび保育園（大阪府）

食事で健康な体と豊かな心を

大阪府大阪市に所在する、社会福祉法人 喜和保育事業会 きのみむすび保育園は、平成8年に開園し年中無休で運営しています。園の主人公は子ども達で、やりたいことやれそうなのに自ら挑戦し、心を満たし遊びこみ、遊びきる、のびのび充実保育を行っています。

保育園の概要

- 名称 社会福祉法人 喜和保育事業会 きのみむすび保育園
- 所在地 大阪府大阪市住之江区西加賀屋4-4-10
- 園児数・職員数 園児数:197名 職員数:45名
- 担当者(代表者) きのみむすび保育園園長 坂下 喜佐久
- 電話 06-6682-3001
- FAX 06-6682-3002
- HPアドレス <http://www.kinomi.ed.jp/>

きのみむすび保育園



食育活動の概要

☀ 活動の動機・目的

「人」＋「良」＝「食」、食べ物は人の体を良くするものでなくてはなりません。園では、健康な体と豊かな心を育てていく食事に取り組んでいます。

味覚は「つ」が付くまで（9歳まで）に完成するものなので、幼少期に正しい食習慣やしっかりとした味覚を身に付ける必要があると考えています。

☀ 活動の紹介

保育園の給食は毎日（月曜から金曜）、完全玄米のご飯と和食のおかずの献立です。おかずは週に魚が2回、野菜が2回、肉が1回の割合となっています。玄米は農家と契約して、農薬を使用せずにあいがも農法で作ってもらっています。完全玄米は炊き方が難しく、玄米食を完成させるのに10年かかりました。玄米に小豆を入れると食感が良くなり、子ども達に人気となっています。

姉妹園の「きのみ保育園」では、80坪の畑があり、タマネギ、大根、じゃがいもなどの野菜の栽培をし、自給自給を実践しています。農業体験は作物を育てる喜びが体験でき、自分が作った野菜は苦手なものでも食べてみようというきっかけになっています。嫌いなものは少しずつ、時間をかけて食べられるようになれば良く、体験することが大切だと考えています。また、子ども達は、皮むきなどの調理の手伝いなどもしています。

これまでの成果・課題など

当初、保護者の食習慣を変えたいと思い、直接保護者に働きかけましたが、上手くいきませんでした。

しかし、子どもを通じて親を変えることはできます。園で和食に親しんだ子どもが、家で親と和食を作ってもらえるようになってきています。

その結果、肥満が無くなり、健康になっています。

中国四国管内幼稚園・保育所関連情報

島根県

幼稚園数 116ヶ所
園児数 4,762人
保育所数 284ヶ所
児童数 20,181人

鳥取県

幼稚園数 39ヶ所
園児数 4,344人
保育所数 192ヶ所
児童数 16,037人

山口県

幼稚園数 203ヶ所
園児数 16,364人
保育所数 254ヶ所
児童数 19,259人

広島県

幼稚園数 320ヶ所
園児数 33,651人
保育所数 320ヶ所
児童数 22,440人

岡山県

幼稚園数 329ヶ所
園児数 19,659人
保育所数 199ヶ所
児童数 15,471人

香川県

幼稚園数 178ヶ所
園児数 14,495人
保育所数 134ヶ所
児童数 10,987人

愛媛県

幼稚園数 185ヶ所
園児数 18,275人
保育所数 254ヶ所
児童数 16,946人

高知県

幼稚園数 59ヶ所
園児数 4,396人
保育所数 174ヶ所
児童数 10,101人

徳島県

幼稚園数 214ヶ所
園児数 7,718人
保育所数 214ヶ所
児童数 13,961人

※幼稚園データは、文部科学省 平成23年度学校調査速報値

※保育所データは、厚生労働省公表 平成23年4月1日現在の数



食育基本法（抜粋）

■ 第1章 総則

第6条 食に関する体験活動と食育推進活動の実践

食育は、広く国民が家庭、学校、保育所、地域その他のあらゆる機会とあらゆる場所を利用して、食料の生産から消費等に至るまでの食に関する様々な体験活動を行うとともに、自ら食育の推進のための活動を実践することにより、食に関する理解を深めることを旨として、行われなければならない。

幼稚園教育要領（抜粋）

■ 第2章 ねらい及び内容

健康（3 内容の取扱い）

- （4） 健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物の興味や関心をもったりするなどし、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。

環境（3 内容の取扱い）

- （2） 幼児期において自然の持つ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるように工夫すること。

保育所における食育に関する指針（抜粋）

■ 第1章 総則

（略）

食べることは生きる事の源であり、心と体の発達に密接に関係している。乳幼児期から、発達段階に応じて豊かな食の体験を積み重ねていくことにより、生涯にわたって健康で質の高い生活を送る基本となる「食を営む力」を培うことが重要である。

（略）

楽しく食べる体験を通して、子どもの食への関心を育み、「食を営む力」の基礎を培う「食育」を実践していくことが重要である。

■ 1 食育の原理

（1）食育の目標

- ② 「食べたいもの、好きなものが増える子ども」になるには、子どもが意欲的に新しい食べ物に興味や関心を持ち、食べてみようとする試みができる環境が重要である。（略）様々な体験を通して、いろいろな食べ物に親しみ、食べ物への興味や関心を育てることが必要である。（略）
- ④ 「食事づくり、準備にかかわる子ども」となるには、子ども自身が食事をはじめ、食べる行為を本当に楽しく、待ち望むものであるような体験を積むことが必要である。（略）
- ⑤ 「食べものを話題にする子ども」となるためには、食べものを媒体として人と話すことができるような環境が多くあることが望ましい。（略）食べる行為が食材の栽培などいのちを育む営みとつながっているという事実を子どもたちに体験させ、自分で作ったものを味わい、生きる喜びにつなげたい。



中国四国農政局 消費・安全部 消費生活課

〒700-8532 岡山市北区下石井1丁目4-1 岡山第2合同庁舎

TEL:086-224-4511 FAX:086-224-4530

中国四国農政局ホームページ「食育ひろば」

<http://www.maff.go.jp/chushi/syokuiku/index.html>

- ・ 鳥取地域センター 消費・安全グループ TEL:0857-22-3131
- ・ 松江地域センター 消費・安全グループ TEL:0852-24-7311
- ・ 広島地域センター 消費・安全グループ TEL:082-228-9629
- ・ 福山地域センター 消費・安全グループ TEL:084-955-8642
- ・ 山口地域センター 消費・安全グループ TEL:083-922-5204
- ・ 徳島地域センター 消費・安全グループ TEL:088-622-6136
- ・ 高松地域センター 消費・安全グループ TEL:087-831-0827
- ・ 松山地域センター 消費・安全グループ TEL:089-932-1379
- ・ 高知地域センター 消費・安全グループ TEL:088-875-2155